

## 念願の悪沢岳、赤石岳（と、奥深いオクシズ）（会山行）

（報告）TM

◎期日：2024年8月8日（木）～10日（土）

◎メンバー：TM（L）、FJ（SL）、KM、会員外1名

5年前から画策してきたが、台風だのコロナだので毎度頓挫し、ようやく実現した南アルプス南部の悪沢岳（荒川東岳）・赤石岳山行。実現までの道のりも長かったが、登山道も長かった。総距離約25.7km、累積標高差上り・下りとも約3,158m（ヤマケイオンライン「ヤマタイム」による）。10名しか予約を取らない憧れの赤石岳避難小屋も人数分の予約が取れ、ついに実行できた。

### <Day0>

前夜8/7の真夜中に集合、ナビで畑薙第一ダムを目的地に設定して、出発した。新静岡で新東名高速を出るまでは順調だったが、駐車場のある畑薙第一ダムまでの一般道がこれでもかこれでもかという山道で、その距離70km以上。自宅でごく短い仮眠をとっただけ、ほぼ徹夜で、いつまでも終わらない山中ドライブとなり、特にドライバーには過酷な始まりとなってしまった。

### <Day1>

駐車場には6時頃到着。前夜泊と思われる車も多く、まだ静かだ。我々ものんびり登山の身支度を整えた。7時半発の東海フォレスト送迎バスに乗り込み、約1時間で榎島に着いた。榎島は綺麗なリゾートのように整備されていて驚いた。

9時出発。千枚岳、悪沢岳から赤石岳へ巡る、反時計回りの周回ルートだ。取り付きの坂が厳しい。しばらくするとやや傾斜が落ち着き、体も慣れてきて少し楽になった。鉄塔をくぐったり、林道を何度か渡ったりして、淡々と歩く。疲れを感じ始めたころ、ようやく小さな水場に出た。先程から抜きつ抜かれつしていたご夫婦に、ここが清水と教わり、やっと一息。本日の行程のほぼ半分だ。冷たい水を補給、腹ごしらえして一休み。

歩行再開したが、全員ほとんど寝ていないこともあり、疲れが隠せない。見晴台で一服（雲が多くてあまり見晴らせず）、静かな美しい森（小屋の幻覚を見た者、複数名）、駒鳥池を見下ろす休憩ポイント（笑顔なし）を経て、へとへとで千枚小屋に到着した。標高差約1500m、歩行時間7時間半。FJさん、KMさんは幕営のためテント場へ。OTさんと私は小屋の2階スペースをもらって着替え、荷物整理などして、1時間後再集合。「お疲れやま！」と乾杯した瞬間、雨が降ってきた。小屋の人に、すぐ脇の「百枚小屋」という小屋を使っていいと教えてもらい移動。小屋は明かりがなく真っ暗で、小さな明かりをつけて夕食にした。翌日の出発は3時半頃と決定。太平洋上に熱帯低気圧があり、午後には雨・雷の見立てだったため、早朝出発早めの到着としたかった。小屋の人も4時出発推奨だった。



道端のタカネトリカブト

<Day2>

2 時半起床。他にも同じような時間に起きて準備している人がちらほらいる。山の端が少し明るくなり始めた 4 時出発。実は私、ここから悪沢岳山頂を出るまで殆ど記憶がない。ということで写真を頼りにレポートしてみる。暗い中だったが、最初はこれといった難所のない登り道。森を抜けると、夏の高山植物のお花が次々と現れる。タカネマツムシソウが花盛り。千枚岳辺りで、空が焼け雲の間から朝の太陽が覗く。天気は割と良い。ここから先は岩の道が続く。タカネナデシコ、ミネウスユキソウ、シロバナタカネピランジ、タカネトリカブト、夏のお花が真っ盛り。垂直はしごを降りる。朝日の当たるハイマツ林の中を登る。うっすらと富士山が見えてきた。丸山に着くころには、すっかり日が昇る。標高もここで



千枚岳山頂 (2880m)



淡い紫色のタカネマツムシソウ



タカネトリカブトの群生

いったん 3000m を超えた。次のピークは、いよいよ悪沢岳である。

下向きに咲く紫の花はイワギキョウか、道中ずっと咲いていた。途中でハイマツに押し戻されて転び、

すっ飛んだストックを KM さんが拾ってくださった。40 分ほどで悪沢岳。標高 3141m。皆で写真を撮りあう。生クリームを絞ったような雲がポンと乗った富士山は、横に縞が入るように雲がかかって幻想的。30



悪沢岳山頂 (3141m)

分ほどゆっくりして、次の荒川中岳へ向かう。ここは岩場をぐっと下る。この辺りから記憶が戻ってくる。岩を落とさないよう、ルートを外れないよう気を付けながら 200m 以上下って、楽しい



赤石岳方面。小さく荒川小屋

岩場歩き。タカネシオガマの濃いピンク、ホソパイワベンケイの淡いオレンジ、コバノコゴメグサの白と黄色が愛おしい。小さな花たちが精一杯咲いている。



かわいい中岳避難小屋

中岳避難小屋の前ですれ違う人たちが座って休んでいるのを見て、ついつられて座ってしまう。小屋は朝日に向かって寝袋干し中。青空が広がり、この天気が続くよう願う。ここを過ぎるとすぐに中岳だ。写真を撮って通過。この辺りが 3 日間行程のちょうど真ん中くらい。この先すぐ分岐で、三伏峠方面への道が山肌に刻まれていて、なんたかいい風景。この途中にある荒川前岳はうっかり寄り忘れ、荒川三山は制覇できず。

前に進む。左手に大きなカール。前方は赤石岳方面だが、その手前のうんと下の方に赤い屋根の小屋が小さく見える。「荒川小屋?」「荒川小屋でしょう」。信じられないような下り道だ。こんなに下らなくてもいいでしょうと思いつつ、仕方なく下る。途中、鹿よけネットのドアを開けると、斜面一面のお花畑が広がっていた。ここが噂に聞いたお花畑か! ウサギギク、ハクサンフウロ、タカネコウゾリナ、ミヤマアキノキリンソウ、ハクサンイチゲ、イワオウギ、ミヤマキンバイ、etc。厳しい斜面の、心踊る風景だった。



悪沢岳と荒川小屋の間にあるお花畑

お花畑を抜けると、荒川小屋はだいぶ近づいていた。が、屋根を見下ろす感じは変わらない。淡々と下る。お花畑から 30 分ほどでやっと小屋に着いた。ここでお昼休憩。

今日泊まる赤石岳避難小屋には水場がない。ただ、また標高差 500

m を登り返すのだから、ここの水場でたっぷり汲んで荷物を重くするわけにはいかない。ペットボトルに 1 本だけ汲み、足りなければ買うと割り切った。外のベンチから見上げる大きな山、これが本日の目的地、赤石岳。最後の登り、頑張るぞ、と書いていたら、小屋の人と話した FJ さんたちが「これは小赤



イツメクサとトウヤクリンドウ

石岳だって。赤石岳はこの向こうだって」と信じがたいことを言う。一瞬息が止まる。何ということだ。やってくれるな、赤石くん! こんなに近くまで来たのに、ご本体がまだ姿を隠しているとは! この脱力状態で、標高差 500m を耐え、赤石岳本体に辿り着くには発想の転換が必要だ。地図を見る。距離はまだ、本日行程の 3 分の 2 というところ。時間はあと約 2 時間半。うーむ。高尾山だ、高尾山に登ると思えばいいんだ、ちょっと無理があるけれど。幸いなのは、朝早い出発だったのでまだ 11 時前だということだ。まだお天気は持っている。が、雲が湧いてきて、

いつ天気が急変してもおかしくない様子だったので、ぐずぐずせずに出発することにする。

小赤石岳への最初はトラバースの平らな道。なんだかヨーロッパアルプスのような、からっとした風景だ。大聖寺平を通過して急登に入る。地図では1時間ほどで300mくらい上がる。空気が薄くなって疲れもピークに近い。時々立ち止まっては息を整え、淡々と登るのを繰り返す。咲き終わったチングルマ、小さな白いイワツメクサ、クリーム色が美しいトウヤクリンドウが慰めた。振り返ると、



赤石岳山頂の雷鳥さん



赤石岳到着 (3120m)

先程歩いたトラバース道をだいぶ下に見下ろすようになった。荒川小屋から約2時間10分で、小赤石岳に到達。3081m。雲が湧き、行く手は真っ白。一休みして、また50mほど下り、赤石岳へ。山頂への岩の道は、我々だけでなく他の人も混じり、途中で息を整えている人を抜かし、また抜かされて、交互に登る。おや、山頂直前で人が集まっている。雷鳥だ！すぐそこにいて、なかなか逃げない。だが、雷鳥の常で、カメラを取り出そうとするとハイマツの方へ隠れてしまう。OTさんは今回が初雷鳥だそう。雷鳥が去ると、そこはもう山頂。若い人が続々と上がってくる。すごいスピードで来たんだろうな。

若いって素晴らしい！

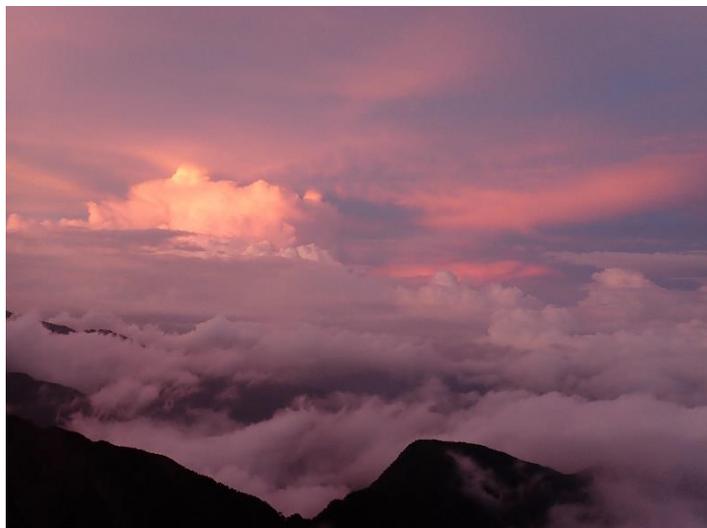
今晚泊まる赤石岳避難小屋が、すぐ足元に見える。ここまで来れば到着も同然だ。360度の眺望。大きな聖岳が目の前だ。のんびり写真を撮って、坂道を2分下って小屋に到着。小屋番のお兄さんは、ひげで一見怖そうだけれど、愛嬌のある人だ。余裕のない登山を終え、とにかく寛ぎたくて、お湯を沸かして紅茶を飲む。お腹の底からリラックスできた。本日の予約は8名。「意外とキャンセルが出るんですよ」とのこと。我々4名は2階の2部屋のうち、1部屋をまるまる使わせてもらえた。



赤石岳避難小屋。後ろに赤石岳山頂。

1階の土間はストーブが焚かれ、その上の大きなやかんのお湯は、食事に自由に使っていいとのこと。つまり、小屋の食事に持参の水は一切使わなくていいというわけだ。やかんのお湯が少なくなったらすぐ補充してもらえ、本当にありがたかった。8名でラーメン食べるわ、乾燥米に使うわ、お茶は飲むわ、お湯割りにするわで大活用。高いお山は、とにかく喉が渇きます。但し、お湯は行動用に使ってはいけないことになっている。

この日の宿泊者はとても良い人ばかりで、逆ルートで周回している人、聖平へ回る人、我々



赤石岳山頂からの夕暮れ

同様明日は下山の人などいろいろ。全員単独登山で、山の話で盛り上がり、楽しい夕食となった。

18時半頃、夕陽を見にまた外へ。まるで裏山みたいな3120mの百名山の山頂に、カメラだけ持って登り、360度の空を眺める。あいにく雲が多く、きれいな夕日は見られなかったが、雲がほんのり赤く染まったり、雲が別の雲の影になったり、繊細で美しい風景が見られた。赤石岳のすぐ下にもう一つ赤石岳があって、そちらに行ったりしてきれいな撮影ポイントを探した。小屋に戻ったらまたお腹が空いて、ラーメンを食べる。消灯の20時近くに横になり、少しうとうとしたところで、床がじわじわ揺れ出し、小さいけれど、一回しっかり揺れた。神奈川県西部の最大震度5弱の地震で、九州の地震と相まって下界は大騒ぎだと翌日知った。歩行時間10時間超、長い1日だった。

### <Day3>

目覚ましの設定を1時間間違え、バタバタと慌ただしく1日が始まった。赤石岳の朝の富士山を見たくて、わざわざこの小屋を予約したのに、全く残念な自分である。肝心の富士山はうっすらとした雲の向こうにぼんやりと見えるだけ。太陽は雲から出そうで出ない。しばらく粘ると、富士山のシルエットが少しずつはっきりしてきた。太陽も雲の上から顔を出して強い光を放ち始めた。

5時半出発予定だったが、結局6時出発。2分で最後の赤石岳登頂を果たし、また周囲の風景を眺める。写真を撮っていると、聖岳方面から学生が一人でふらっと現れた。写真を撮りましょうかと言うと、ザックから寄せ書きの大きな布を取り出した。新潟の大学の探検部だそうで、布には部員の目標や思いが一面に書かれている。彼のチャレンジは日本アルプス全縦走だそうだ。KMさんがその幕借りていいですか、と、我々もまさかの探検部幕で写真を撮ってもらった。とても愉快だった。

こんなことをして遊んでいたらますます出発が

遅くなってしまった。ここからは気を引き締めて下山しなければならない。今日下るのは、かの有名な大倉尾根。大倉喜八郎、御年90歳が1926年、自分の山林を見たいと、駕籠を担がせて、風呂まで持参して総勢二百名で登り下りした尾根である。残念ながら我々に駕籠はなく、標高差2000mを自力で降りなければならない。バスの時間は最終の13:50と決まっているので、のろのろしているわけにもいかない。



大倉尾根のオコジョちゃん

この日は土曜日で、下からどんどん登ってくる。途中、赤石小屋で話した関西の女性は確か、榎島から登ってきて、今日は荒川小屋まで行きたいと言っていた。驚異的な健脚である。私の方はたとえば3分の2くらい下ったところから膝が笑い出し、途中で足にマメもできて、最後2時間くらいは本当につらくなった。FJさんが時間管理に厳しくなり、



おはようございます。



学生気分

とにかく 13:15 ごろまでには下りようという雰囲気。厳しい顔をしながらも、どうしても足が前に出ない時は静かに待ってくれる大人な対応で、なんとかかかんとか榎島に帰着。バス乗り場近くのベンチにやっとの思いでザックを置き、仕上げのソフトクリームでお疲れ様をして、少し生き返った。

帰り道は白樺荘の日帰り温泉で汗を流し、行きとは違う道路で帰るべく、一つ名古屋寄りの島田金谷 IC をナビに設定、大井川鉄道沿いを南下した。「オクシズ」と呼ばれる大井川沿いのエリアはあまりにも奥過ぎて、いくら走っても大きな山に囲まれ続け、いつになったら抜けられるのかと思うほどに深かった。往路よりマシとはいえ、やはり 70km 以上の山道を走るの、運転手にとって決して楽ではなかったはず。だが、こんな滅多に來られない場所に来ているのだから、というドライバーの執念にも似た好奇心のおかげで、有名な奥大井湖上駅を眺めたり、長島ダムで放水を見たりの観光もできた。大井川鉄道の車庫横を通りかかったら、機関車トーマスの 3 機関車が並んで停まっていて、大の大人が盛り上がった。



奥大井湖上駅

2 時間くらい伴走した大井川は、上流で既に川幅広く、南アルプス南部からの水を集めて水量豊富に流れ、蛇行した河原も広々とし、どれだけこの流域にとって大きな存在なのかを知った。この広大な川の水源地ではリニア中央新幹線の工事が計画されている。トンネルが水脈を切って水抜けが起き、山の自然環境に影響が出ること、川沿いの風景・水事情が変わることは全く許されないと強く思った。ポンプで水を補填すればいいという人は、一度ここに来て川や山を見てほしい。自然はあまりにも偉大だ。

最後に、この大変な山行を支えてくださった、FJ さん、KM さん、OT さんには感謝しかありません。本当にありがとうございました！

#### 《コースタイム》

8/8：榎島 (9:00) ~ 吊り橋 (9:15) ~ 鉄塔下 (10:12) ~ 清水平 (12:50-13:11) ~ 見晴台 (14:10-14:20) ~ 駒鳥池標柱 (15:38-15:47) ~ 千枚小屋着 (16:30)

8/9：千枚小屋発 (4:00) ~ 千枚岳 (4:44-5:00) ~ 丸山 (5:55-6:05) ~ 悪沢岳 (6:43-7:15) ~ 中岳避難小屋 (8:28-8:45) ~ 荒川中岳 (8:49) ~ 三伏峠分岐 (8:58) ~ お花畑 (9:14-9:30) ~ 荒川小屋 (10:00-10:51) ~ 大聖寺平標柱 (11:30) ~ 小赤石岳 (13:03-13:20) ~ 榎島下降点 (13:34) ~ 赤石岳 (13:57-14:15) ~ 赤石岳避難小屋着 (14:18)

8/10：赤石岳避難小屋発 (6:05) ~ 赤石岳 (6:07-6:20) ~ 榎島下降点 (6:35) ~ 北沢源頭 (水場) (7:10-7:20) ~ 富士見平 (8:08-8:25) ~ 赤石小屋 (8:52-9:19) ~ ボッカ返し (9:55) ~ 標柱 (10:55) ~ 樺段 (11:19-11:30) ~ 登山口 (階段下) (12:57) ~ 榎島 (13:03)

(終)